

特定分野に特異な才能のある児童生徒に対する  
学校における指導・支援に関する有識者会議  
(2021年8月26日)

令和3年8月26日  
特定分野に特異な才能のある児童生徒に  
対する学校における指導・支援の在り方  
等に関する有識者会議（第2回）  
資料 1

# 個別最適な学びと協働的な学び ～その子らしさが発揮できる自律的な学びの保障～

上智大学 奈須正裕

# 学力論の2つの系譜

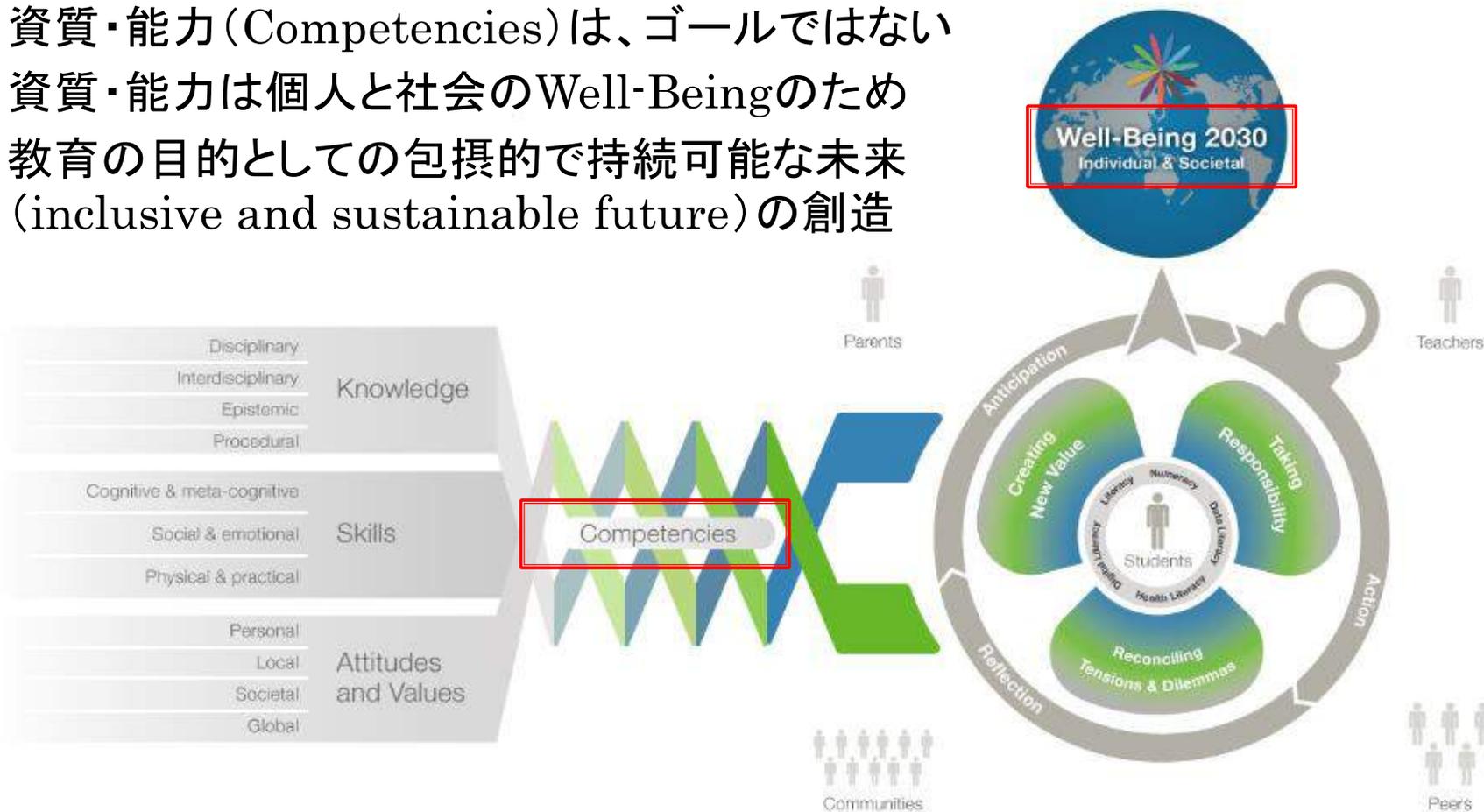
- ▶ 「内容」を基盤とした学力論  
コンテンツ・ベース  
「何を知っているか」  
A問題的学力
- ▶ 「資質・能力」を基盤とした学力論  
コンピテンシー・ベース  
「何ができるか」  
「どのような問題解決を現に成し遂げるか」  
B問題的学力、PISA型学力 → 高大接続改革

# コンピテンシーへの注目

- ▶ マクレランドの発見:コンテンツ・ベイス・テストの成績は将来の成功を予測しない(1970年代)
  - ▶ 成功を予測した指標:達成への意欲、感情の自己調整能力、問題解決力、対人関係能力、コミュニケーション能力…
- ①優れた問題解決に必要な十分な要因=コンピテンシー(資質・能力)による学力論の再定義
  - ②非認知能力(社会・情動的スキル)の学力論への組み入れ要求
  - ③汎用的認知スキル(思考力・判断力・表現力等)の重視
  - ④知識・技能の質的改善:暗記的知識から活用の効く知識へ、要素的知識から精緻化・統合化された知識へ

# OECD Learning Framework 2030

- ▶ 資質・能力を育てるのは何のため？
- ▶ 資質・能力 (Competencies) は、ゴールではない
- ▶ 資質・能力は個人と社会の Well-Being のため
- ▶ 教育の目的としての包摂的で持続可能な未来 (inclusive and sustainable future) の創造



# 教育の目的としての「持続可能な社会の創り手」

- ▶ 幼稚園から高校までのすべての学習指導要領等の「前文」
- ▶ 一人一人の児童が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、**持続可能な社会の創り手**となることができるようにすることが求められる

# 資質・能力と well-being への筋道における個性

- ▶ どのような資質・能力の実現が望まれるのか？
- ▶ ①すべての子どもが共通に身に付ける資質・能力
- ▶ ②その子の個性に応じて伸長を図る資質・能力
- ▶ ①を基盤としつつ、②を存分に生かし、その子ならではの筋道で個人的・社会的な well-being の実現を果たしていく
- ▶ 実現される資質・能力はもとより、資質・能力から well-being への筋道もまた、個性的で(デコボコが)あっていい
- ▶ ただ、それが許容されるような社会や学校の風土が重要
- ▶ 多様性と包摂を原理とした社会・学校・・・持続可能な社会の前提条件
- ▶ 同時に個々人にも、自分の個性をどのように生かして他者や社会に関わっていくか、社会的 well-being に貢献していくかを模索することが望まれる・・・その機会を、子ども時代に学校が提供する可能性

# 「令和の日本型学校教育」における「個別最適な学び」

- ▶ 「これからの学校教育においては、子供がICTも活用しながら自ら学習を調整しながら学んでいくことができるよう、『個に応じた指導』を充実することが必要である。この『個に応じた指導』の在り方を、より具体的に示すと以下のとおりである」
- ▶ 「全ての子供に基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させ、思考力・判断力・表現力等や、自ら学習を調整しながら粘り強く学習に取り組む態度等を育成するためには、教師が支援の必要な子供により重点的な指導を行うことなどで効果的な指導を実現することや、子供一人一人の特性や学習進度、学習到達度等に応じ、指導方法・教材や学習時間等の柔軟な提供・設定を行うことなどの『指導の個別化』が必要である」
- ▶ 「基礎的・基本的な知識・技能等や、言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力等を土台として、幼児期からの様々な場を通じての体験活動から得た子供の興味・関心・キャリア形成の方向性等に応じ、探究において課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現を行う等、教師が子供一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供することで、子供自身が学習が最適となるよう調整する『学習の個性化』も必要である」
- ▶ 「以上の『指導の個別化』と『学習の個性化』を教師視点から整理した概念が『個に応じた指導』であり、この『個に応じた指導』を学習者視点から整理した概念が『個別最適な学び』である」

中教審答申(2021年1月26日 17～18頁)

# 「個別最適化された学び」から「個別最適な学び」へ

- ▶ 「個別最適な学び」・・・「個に応じた指導」を学習者側から整理した概念
- ▶ 「個に応じた指導」＝「指導の個別化」＋「学習の個性化」
- ▶ 「個別最適化された学び」→「個別最適な学び」
- ▶ AIによる「情報推薦」等によって自動的に「最適化される」だけでは弱い
- ▶ 学びの主体である子どもが、教師の支援を受け、自らにとって「最適な学び」とは何かを判断しながら、自律的に学び進められる子に育て上げる
- ▶ 個別最適な学びの2つの意味
  - ①一人ひとりに応じた多様な教材・学習時間・方法等の柔軟な提供
  - ②自分に最適な学びを自力で計画・実行できる子どもの育成

# 指導の個別化と学習の個性化

- ▶ 中教審答申「今後における学校教育の総合的な拡充整備のための基本的施策について」(1971年)
- ▶ 「国民の教育として不可欠なものを共通に修得させるとともに、豊かな個性を伸ばすことが重視されなければならない」
- ▶ そのために「個人の特性に応じた教育方法によって、指導できるように改善されなければならない」
  
- ▶ 加藤幸次(国立教育研究所:当時)が提唱した、中教審の2つの目標に対応する2つの個別最適な学び・・・「個別化・個性化教育」
  
- ▶ 「国民の教育として不可欠なものを共通に修得させる」→「指導の個別化」: すべての子どもに共通の基礎学力を等しく着実に保障すべく、一人ひとりに最適化された指導方法、学習時間、教材等の豊かで柔軟な提供を進める
  
- ▶ 「豊かな個性を伸ばす」→「学習の個性化」: 自分が得意な領域や学び方を見出し、自分に最適な学びを自力で計画・実行できるようになることを目指し、各自の興味・関心、キャリア形成の方向性等に応じて課題や活動を選択・設定する機会の提供を進める

# 個別化・個性化教育における子どもの多様な姿

## 1985年頃の愛知県東浦町立緒川小学校の実践



# 指導の個別化の実際

- ▶ プログラム学習: スモール・ステップと即時フィードバックを原理とし、個人のペースで与えられたコースを着実に学び進めていく
  - ※ ティーチング・マシン、CAI、インテリジェントCAI、AIドリルなど
- ▶ 完全習得学習: 一斉指導→形成的評価→習熟度別に最適化された指導
  - ※ テスト結果による集団編成のみでは、かえって学力差が拡大
- ▶ ATI(適性処遇交互作用)に基づく学習: 学習適性に沿って最適化された複数の教材・指導法の提供
  - ※ 複数の教材・指導法の選択を子どもに委ねることで、学習の個性化の要素が入ってくる

# 学習の個性化の実際

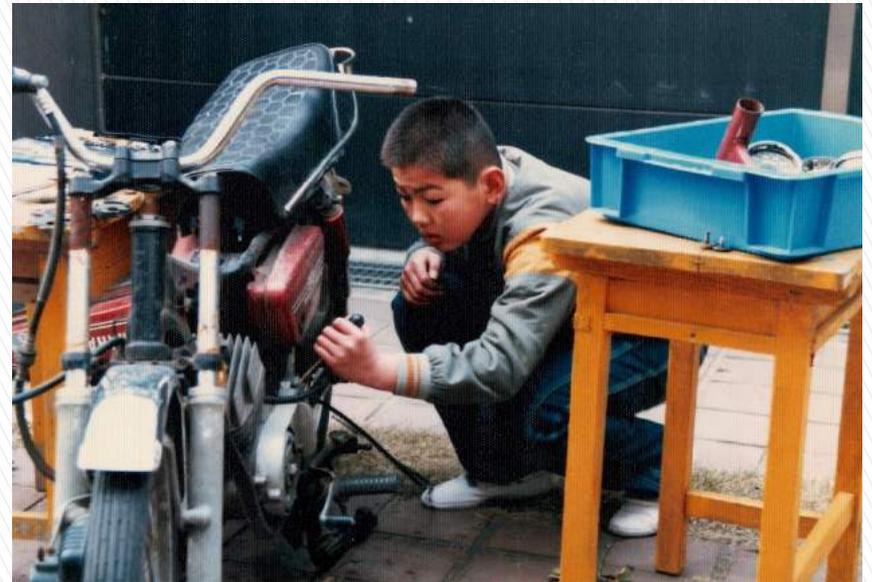
- ▶ 2つの得意を見出し、自分に最適な学びを自力で進められる
- ▶ ①学ぶ「領域」の得意:この領域が得意、充実する、自分には必要
- ▶ ②「学び方」の得意:この学び方だと、自分らしく、楽しく上手に学べる
- ▶ さまざまな学びの経験を、個別的に自由に試せる機会の提供
  
- ▶ ①自由研究学習(個人総合):各自の興味・関心、必要感に応じて、何をどう学ぶかを教師と相談しながら計画し、学び深めていく「契約学習」
  - ※ 現行教育課程では、総合的な学習(探究)の時間で実施可能  
高校で取り組みが進んでいる「探究」の多くも、このカテゴリー
  
- ▶ ②単元内自由進度学習:「環境による教育」の考え方に基づいて提供される豊かな学習環境を自分らしく活用して、オーダーメイドの学びを組み立て、自己調整しながら学び進めていく

# 自由研究学習(オープンタイム) 愛知県東浦町立緒川小の35年前の実践の様子



室町時代の文化史の学習をきっかけに  
お茶のお点前を体験的に学ぶ

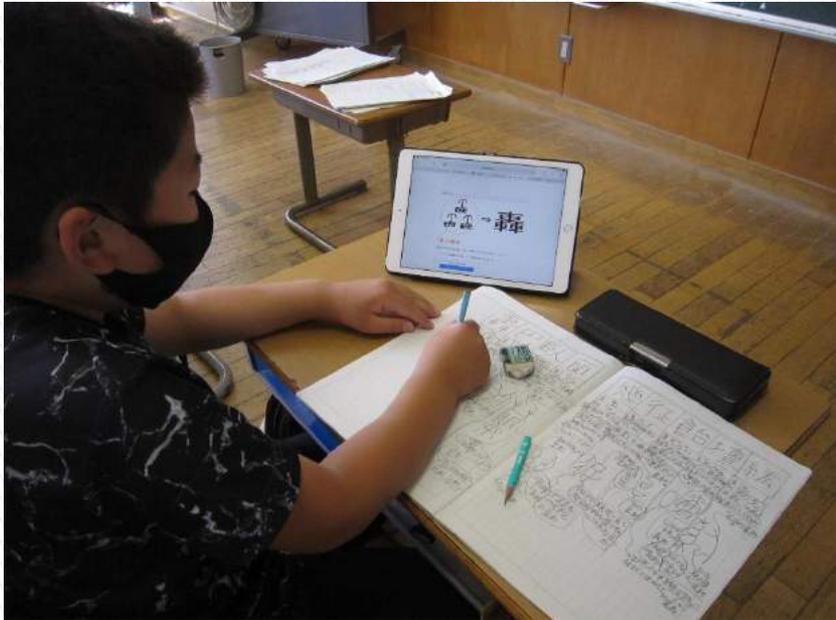
バイクの作りと仕組みを納得がいくまで探究



地域のボランティアから手芸を教わる



# 自由研究学習におけるICTの利用(天童市立天童中部小学校)



# 自由研究学習におけるICTの利用(天童市立天童中部小学校)



先生も取り組んでいます



# 大造じいさんとカルガモ

- ▶ 理科は得意だけど、国語は苦手な子？
- ▶ それは「領域」なのか？「学び方」なのか？国語は無理なのか？
  
- ▶ 「大造じいさんとガン」を生物学的に考察した子ども
- ▶ ガンは草食性で、タニシは食べない
- ▶ ハヤブサは最大翼長120cmで、1.8kg以下の獲物を捕獲する
- ▶ ガンは最大翼長165cm、体重2kg以上にも達する
- ▶ ガンは、ハヤブサの餌としては大きすぎる
- ▶ ガンと似た水鳥でタニシを食べるといった条件には雑食性のカモが該当
- ▶ ハヤブサが襲う可能性のある小型のカモというと、カルガモ！
- ▶ 「大造じいさんとガンで、一番読者の心に残るのは、ハヤブサとガン（残雪）の戦う場面でしょう。しかし、ハヤブサとガンが大きさに戦うわけがなく、きっと、大造じいさんはカルガモをガンと間違えたのでしょう」
- ▶ 担任：「よく調べましたね。〇〇くんらしい学びのつくり方です」

# 生物学的に言えばおかし点もあるが、 文学的に読むとかなりおもしろい

- ▶ 「椋鳩十の書く話は生物学的に言えばおかし点もあるが、文学的に読むと、かなりおもしろいです。どうしておもしろいかというと、椋鳩十はすぐれた文章力を持っているからです。椋鳩十の話はいきいきとしていて、命の輝きが感じられます。読者をぐいぐいと話へ引き込んでいく。僕もそんな文章が書きたいと思い、大造じいさんとガンを読んでもみると、面白いことに気が付きました。椋鳩十は、セリフに印象的な言葉をたくさん入れているのです。これは『片耳の大鹿』でもそうです。(中略) 明らかに椋鳩十の文章は他の文章と違います。椋鳩十と同じく動物ばかり書いているシートンとも違います。終わり方も印象的です。椋鳩十はセリフの用い方が特殊で、その特殊なところがいいんです」
- ▶ その「領域」の学びが、特定の「学び方」しか許さないから、学べない
- ▶ そのように学びたい、そのようにしか学べない子どもの「学び方」を十全に保障する教育へ

# 単元内自由進度学習 愛知県東浦町立緒川小の35年前の実践の様子



実験や観察も各自のペースで進める  
その中で自然に生じる教え合いや学び合い

一人ひとりの様子をしっかりと見とる教師



机上に飲み物を準備して一人黙々と学ぶ



# 单元内自由研究学习(天童中部小学校:6年社会科)



# すべての子どもは生まれながらにして「有能な」学び手 ＝アクティブ・ラーナー

- ▶ 全員の子どもが教師の目の前にいない: どうやって教えるの？
- ▶ 適切な環境さえあれば、子どもは環境に関わり学んでいく
- ▶ すべての子どもは生まれながらにして「有能な」学び手
- ▶ さらに、それを洗練させる経験の提供
- ▶ 教師のいちいちの指示がなくても、学べるようなシステムの導入
- ▶ 徹底した情報の開示、豊かな学習環境の整備、子どもを信じて任せる
- ▶ 自分らしい「学び方の得意」を見出し、「メタ認知」を働かせ、「学習の自己調整」ができる子どもに

# 何を、なぜ、どのように学ぶのかの情報をすべて開示する

## …指導案を子どもに手渡す

何を、なぜ、どのように学ぶのかを明確にする

6年理科 自由進度学習「てこのはたらき」  
ガイダンスプリント

### 6年 組 名前

#### 「疑問」その1

#### たかしくんとよしこちゃんのシーソー

見た目はふっくらしてるけど意外に軽い(体重30kg)、気の強い「よしこちゃん」。

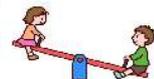
見た目は細いけど意外と重い(体重70kg)、気の弱い「たかしくん」。二人はいつも仲良しで、今日もシーソーに乗りました。

すると、よしこちゃんは「ちよっと、アンタ、そんなとこに座ってたらつりあわないでしょ！少しは考えてすわりなさいよ！！」

と、たかしくんに言いました。それを聞いたたかしくんはおろおろするばかり。

「どこにすわったらいいの？わかんない」と、今にも泣き出しそうです。

さて、たかしくんはどこに座ったらいいでしょう。



#### 「疑問」その2

#### くぎ抜きのみみつ

「くぎ抜き」を使ったことある人いるよね。

どうして、こんなにかんたんに、くぎがぬけちゃうの？

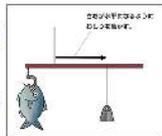


#### 「挑戦」

#### 「さおばかり」を作ろう。

昔から、人々は何を売買するときに「はかり」を使っていた。つりあいのきまりを利用した「さおばかり」です。

竹内先生も「さおばかり」を作ってみました。キミも、正確な「さおばかり」を作って、竹内先生と勝負しよう！



さあ、この学習を終えて、疑問や挑戦をクリアしよう！

・学習場所「第2理科室」

・持ち物

色鉛筆、はさみ、ファイル、教科書



自由進度学習 理科「てこのはたらき」学習のてびき

名前

目標

(時間 8 時間)

利用可能な時数

- ・ぼうが水平につり合うときのきまりを調べる。
- ・「てこ」や「てこ」を利用した道具について調べる。
  - ★チェック 1 学習カード提出
- ・「さおばかり」か「てんびん」を作る。
  - ★チェック 2 作品の提出
- ・「てこ」のはたらきについて分かる。
  - ★チェック 3 チェックテスト

単元の目標と構成

評価＝チェックも  
多様な方法で

#### 学習の流れ

学習内容	教科書	習カード	習カード
① てこのはたらきについて調べる。	P72,73	習カード1	習カード1
② 力点や作用点の位置を変えると、どうなるかを調べる。	P74～75	習カード2	習カード2
③ てこ実験器で、どのようにすればつり合うかを調べ、つり合うときのきまりを考える。	P76～79	習カード2	習カード2
④ てこ実験器で、2カ所以上におもりをつり下げた場合について調べ、つり合うときのきまりを考える。		習カード3	習カード3
⑤ てこを利用した道具について調べる。	P80～83	習カード4, 5	習カード4
★チェック 1 学習カード1～5を先生に見せる。			
⑥ 「さおばかり」か「てんびん」を作る。	P81, 84	習カード6	
★チェック 2 作品と学習カード6を先生に見せる。			
⑦ チェックテストをやる。		チェックテスト	
★チェック 3 チェックテストを先生に見せる。			
ここまでは、かならず終わらしましょう。			
発	☆ 支点が、力点と作用点の間にない「てこ」のしくみを調べよう。		
展	☆ たかしくんとよしこちゃんのシーソーの問題を解こう。		
学	☆ 学校の中にある「てこを利用した道具」を3個以上見つけよう。		
習	☆ 「もの作りカード」を参考にして、つりあいを利用した物を作ってみよう。		
	☆ 「てんびん」や「てこ」についてパソコンで調べてまとめてみよう。		

学習の流れと利用  
可能な学習材等

活動的・体験的な  
学びも取り入れる

早く進んだ子ども  
向けの発展学習

「早修」はせず、魅力的な発展学習や教え合いで「拡充」

竹内淑子『教科の一人学び「自由進度学習」の考え方・進め方』黎明書房、2019年

# 学習環境との関わりで自律的に学ぶ(6年社会科)



# 学習環境との関わりで自律的に学ぶ(6年理科)



# ギフテッド、ボリリュームゾーン、特別支援

- ▶ 個別化・個性化教育は、ボリリューム・ゾーンを想定した取り組み
- ▶ 一見問題なく普通に学んでいる子どもたちにも、その子ならではのスペシャル・ニーズはあり、それが保障されることで、さらによく学べる
- ▶ 考え方や道具立ては、ギフテッド、特別支援でも適用可能
- ▶ 自閉症・情緒障害の特別支援学級での実践では、自分のこだわり、ペースで自由に学べることにより、落ち着いてしっかりと学んでいた



自閉症・情緒障害学級における  
自由進度学習(算数科)の様子



交流学級で体育の時間に何か嫌なことがあったようで、教室に入ってくるなりムシャクシャしてたまらないオーラがほとばしっていた。

初めは着がえることにも集中できなかった。



不機嫌なK

## 笑顔になっていくK



5分ほどして、着がえを始めた。  
そして、やる気满满モードに切りかわった。

## 学習に集中するK



### 笑顔で学習に集中できた要因

- ・座学よりも活動を通して学ぶことが好き
- ・周りの子どもたちに関わることが好き



多くの場面で自由にできた

## 算数科「重さ」学習でのTの様子

ランドセルの重さと自分の体重を一緒に量るという重さ調べでは、様々な量り方で何度も試行錯誤していた

ランドセルを片手で持っても、背中に背負っても、ランドセルを体重計に直接乗せてその横に自分が乗っても、重さがみな同じであることをみつけて、とても面白がっていた



体重計の上でポーズを変えて量る時に重さに変化がでるかどうかの問題も、実に楽しそうに調べていた

# ギフテッド、ボリリュームゾーン、特別支援

- ▶ 個別化・個性化教育は、ボリリューム・ゾーンを想定した取り組み
- ▶ 一見問題なく普通に学んでいる子どもたちにも、その子ならではのスペシャル・ニーズはあり、それが保障されることで、さらによく学べる
- ▶ 考え方や道具立ては、ギフテッド、特別支援でも適用可能
- ▶ 自閉症・情緒障害の特別支援学級での実践では、自分のこだわり、ペースで自由に学べることにより、落ち着いてしっかりと学んでいた
- ▶ 自由が認められることで、他者への関わり方も変化していった
- ▶ 「個別支援計画」「合理的配慮」が、学習の個性化になっているか？
- ▶ すべての子どもに対して、基本的人権としての学習権・発達権を全面的に、十全に保障する教育へと進むべき時期
- ▶ 何とかやれているのだから、それで十分という教育からの脱却



1dで板を4m  
ぬれる心キ音dでは  
何m板をぬままか。

見慣れる  
ぬれる量が音より少ない

予想する  
学習したことの  
何を使うとできそうか。  
目 数直線 音

比べる  
ぬれる長さ、ぬれる音の長さ  
同じところ、ちがうところ  
どれがぬれるのによいか、  
とらして。

計算のきまりや性質  
一つ分×いくつ分  
割で表す  
形の造形 など

比べてみてきまりが  
見つけれないか  
わからぬところは聞いて  
協力・教え方を聞いてよう

見慣れるか  
だいたいこのくらい  
になるだろう。

ぬれる長さ、ぬれる音の長さ  
同じところ、ちがうところ  
どれがぬれるのによいか、  
とらして。

六月 八日 (火) 陸上テニス

自ら学び進める力が育てば、  
協働的な学びも、子どもたちだけで進められる  
(天童市立天童中部小学校)



先生に対する遠慮や忖度なく、  
本音でぶつかりあい、共に学ぶ子どもたち

式 7.56 ÷ 6.3

7.56 ÷ 6.3

筆算のしかたを考えよう

わから  
ないこと

10倍してもなぜ同じになるのか  
ケタケタのわり方がわからない

わり算の性質

7.56と6.3を100倍をして筆算をする  
7.56と6.3を10倍をして筆算をする

大英	1.2
630	756.0
630	
1260	
1260	
	0

大英	1.2
63	756
63	
126	
126	
	0

まとめ  
わり算の性質  
がとも大切  
です

教P58の習題をやる→終わった人からノートに  
書いて写真をとって出ししてください。

七月十五日(木)

子どもたちだけでも、  
このくらいのまとめはできる！

# 子どもがする授業、子どもと創る授業

- ▶ 子どもたちだけで授業を進めさせてみる
- ▶ 低学年の子どもでも、授業の基本的なスクリプトは理解している
- ▶ 算数：問題を解く→考えを出し合う→なぜそうでいいのか説明する
- ▶ 国語：学習問題に沿って、証拠の文を挙げながら考えを出し合う
- ▶ 教師が果たしている機能を、分担・協力して行わせてみる
- ▶ 子どもたちだけでは難しい点(教師の役割)に気づかせるのも大切
- ▶ 時間的には早く進むことが多い・・・普段の授業は無駄が多い？
- ▶ 教師が後ろで見ていて、一緒に授業の振り返りをするのも効果的
- ▶ 授業は教師と子どもたちで創っていくという感覚を強めたい
- ▶ そのための徹底した情報開示、子どもたちとの腹を割っての相談
- ▶ 授業への参画・・・エージェンシーの育成

# 個性の伸長と他者との協働

- ▶ 個別最適な学びを通して自分の「得意」を見出すことで、他者にも同様に個性的な「得意」があることを想像できるようになる
- ▶ すべての人に、その人ならではのかけがえのなさがあるという気づき
- ▶ 自律した個人が、同じく自律した個人と共に、協働でコミュニティの問題解決にあたる…民主主義の基本
- ▶ 集団生活に必要な作業を形式的平等の原理で分担し、すべての人が同じことを同じようにしなければいけない、それが直ちにできなければいけないという「同調圧力」的発想からの脱却
- ▶ 自分は社会的な well-being の実現に対し、どのような貢献ができるかを真摯に考える動きを生み出したい…エージェンシーの育成

# 自立とは何か？ 能力とは何か？

- ▶ 他者に依存しないことが、自立 (independent) とされてきた
- ▶ 困った時に頼れる先が多いことが自立という考え方の出現
- ▶ 誰も、誰かに頼っているし、誰かから頼られているという感覚
  
- ▶ 個人が身に付けているものによって成し遂げられることが能力
- ▶ 道具や他者との相互作用を通して成し遂げられることも含めて能力
- ▶ 学校における能力観をすっかり変革する、一人一台端末
- ▶ 「学習の自己調整」の構成要素としての、他者への Help Seeking
  
- ▶ 個性的 (デコボコ) であるためにこそ、Help Seeking を含む社会・情動的スキルの育成が重要になってくる

# 履修主義と修得主義

- ▶ 協働的な学びは、履修主義・年齢主義と親和性が高い
- ▶ 個別最適な学びは、修得主義・課程主義と親和性が高い
  
- ▶ 特に「早修」についてどう考えるかは、大きなポイント
- ▶ 我が国の取り組みとしては、「拡充」中心で十分に質の高い学びを実現
  
- ▶ 同年齢の子どもたちが集団で学ぶ・・・近代学校の特質
- ▶ 統一学校運動：地域の子どもたちが机を並べて共に学び、共に暮らす
- ▶ 国民形成、国民統合の場としての学校
- ▶ 今日的に、どのように考えるか？・・・市民教育、生活教育 etc.